

## 1 学校運営の中期目標

### 【現状と課題】

本校は、校訓を「元気に、本気で、根気よく」と定め、学校教育目標を「人権尊重の教育を基盤とし、『確かな学力』と『豊かな人間性』を持った子どもを育てる」と設定し、これまで教職員、保護者、地域住民と共に連携し、一人一人の児童の実態に柔軟に対応しながら、丁寧な教育活動を邁進してきた。その成果もあり、本校の児童は人懐っこく朗らかである。

学力面や生活指導の面では、課題も少しずつ改善されてきている。現在では、学校全体が落ち着いた状態で教育活動を遂行することができる。しかし、教職員はそのことに安心することなく、日頃から危機感を持って児童の指導、支援にあたるよう心がけている。

□年度末校内調査において、「学校生活を楽しいと感じている」の項目について、肯定的回答率は、96.4%であり、前年度よりさらに 0.1 ポイント増加している。

□年度末校内調査において、「学校での授業を通して、お子さんに学力がついてきていると感じる」の項目について、肯定的回答率は、86.5%であり、前年度よりさらに 4.1 ポイント増加している。

□年度末校内調査において、「学校からの通信（プリント、ホームページを含む）に、知りたい情報が盛り込まれている」の項目について、肯定的回答率は、85.4%であり、前年度よりさらに 2.8 ポイント増加している。

□年度末校内調査において、「子どもたちの安全確保のための情報を適切に保護者に提供している」の項目について、肯定的回答率は、87.1%であり、前年度よりさらに 5.8 ポイント増加している。

■年度末校内調査において、「あいさつの習慣が身についている」の項目について、肯定的回答率は、87.4%であり、前年度よりさらに 0.6 ポイント減少している。

■年度末校内調査において、「宿題をきちんとするなど、学校の授業以外にも家でしっかり学習している」の項目について、肯定的回答率は、79.9%であり、前年度よりさらに 1.7 ポイント減少している。

■小学校学力経年調査の 4 教科合計の標準化得点を平成 28 年度と平成 29 年度で比較すると、3 年生は H28 調査時期、2 年生だったので実施していない。（H29 89.4）

4 年生は H28（90.1）→H29(98.0)7.9 ポイント増。

5 年生は H28（90.5）→H29(87.9)2.6 ポイント減。

6 年生は H28（96.3）→H29(101.9)5.6 ポイント増。

以上の結果から、5 年生以外は多少の学力向上はうかがえるが、大阪市の平均を上回っている学年は、6 年生だけであり、平成 30 年度はすでに卒業している。

### 【中期目標】

#### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

○多様な体験活動を通して共に育つ集団を育成し、32 年度の年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を毎年 95%以上にする。

○平成 32 年度の小学校学力経年調査・校内調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 95%以上にする。

○毎年度末の校内調査において不登校の児童の割合を、毎年、前年度より減少させる。



### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

- 平成 32 年度の小学校学力経年調査における標準化得点を、前年度より向上させる。
- 論理的に思考・表現し、円滑に対話できる集団を育成し、平成 32 年度の小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して「している(どちらかといえばしている)」と答える児童の割合を前年度より増加させる。
- 日常的に運動する楽しさを味わわせ、平成 32 年度の全国体力・運動能力、運動習慣調査において、男女とも全国の体力合計点を上回ることができるようにする。
- 食育を推進し、学校調査において「食に関心がある」の項目に肯定的回答率を 90%以上にする。

## 2 中期目標の達成に向けた年度目標

### 【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】

#### 全市共通目標

- 年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を 90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。
- 年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。

#### 学校の年度目標

- 年度末校内調査において、「自分を大切にし、周りの人も大切にすることができる」の項目について、肯定的回答率を前年度（94.2%）より 0.8 ポイント増加させる。
- 年度末校内調査において、「あいさつの習慣が身についている」の項目について、肯定的回答率を前年度（87.4%）より 2.6 ポイント増加させる。
- 平成 30 年度末校内調査において、「安全情報確保のための情報を適切に保護者に、提供している」の項目について、肯定的回答率を前年度（87.1%）より 2.9 ポイント増加させる。

### 【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】

#### 全市共通目標

- 小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。
- 小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。
- 小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。
- 全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 5 ポイント向上させる。



#### 学校の年度目標

- 年度末校内調査において、「宿題をきちんとするなど、学校の授業以外にも家でしっかり学習している」の項目について、肯定的回答率を前年度（79.9%）より 5.1 ポイント増加させる。
- 年度末校内調査において、「本を読むようになったと感じる」の項目について、肯定的回答率を前年度（56.3%）より 8.7 ポイント増加させる。
- 年度末校内調査において、「運動することが好きである」の新規項目（前年度調査無）について、肯定的回答率を 80%以上にする。
- 年度末校内調査において、「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の項目について、肯定的回答率を前年度の割合より増加させる。



大阪市立加島小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【子どもが安心して成長できる安全な社会（学校園・家庭・地域）の実現】</b></p> <p>全市共通目標</p> <p>○年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 95%以上にする。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を 90%以上にする。</p> <p>○年度末の校内調査において、暴力行為を複数回行う加害児童数を前年度より減少させる。</p> <p>○年度末の校内調査において、新たに不登校になる児童の割合を前年度より減少させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末校内調査において、「自分を大切にし、周りの人も大切にすることができる」の項目について、肯定的回答率を前年度（94.2%）より 0.8 ポイント増加させる。</p> <p>○年度末校内調査において、「あいさつの習慣が身についている」の項目について、肯定的回答率を前年度（87.4%）より 2.6 ポイント増加させる。</p> <p>○年度末校内調査において、「安全情報確保のための情報を適切に保護者に、提供している」の項目について、肯定的回答率を前年度（87.1%）より 2.9 ポイント増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【施策 1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の学級での満足度を分析、考察して個々の児童理解に努めるために、各種調査等に取り組む。</li> <li>・児童が落ち着いて学習に取り組むことができる環境整備に取り組む。</li> <li>・スクールカウンセラーの積極的な活用を図る。</li> </ul> <p>（いじめ・問題行動に対応する制度の活用）（不登校や児童虐待などの課題への対応）</p>	B 3.21 (A4B3 C2D1 で算出)
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎学期いじめに関するアンケートを実施する。</li> <li>・いじめアンケート実施後、学級全児童の個別面談を実施する。</li> <li>・年間 2 回の「Q-U」調査(楽しい学校生活を送るためのアンケート)を実施する。</li> <li>・「Q-U」調査にかかる校内研修を年間 2 回以上実施し、調査結果の分析、考察の精度を高め、児童理解を充実させる。</li> </ul>	A 7 B 27 C 0 D 0



<p>取組内容②【施策1 安全で安心できる学校、教育環境の実現】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「防災」「減災」の主旨を理解し、自分の身は自分で守るために、主体的に行動できる態度を育成するために、各種マニュアルの改善、活用の推進と研修と実技訓練に取り組む。 (安全教育の推進)(防災・減災教育の推進)</li> </ul>	<p>B 3. 15</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、年間1回(45分間)以上の防災・減災にかかる授業を実践する。</li> <li>・不審者侵入を想定した防犯訓練を年間1回実施する。</li> <li>・各種災害を想定した引取り訓練を年間1回以上実施する。</li> <li>・「警備及び防災の計画」、「安全対策マニュアル」の更新を行う。</li> </ul>	<p>A 5 B 29 C 0 D 0</p>
<p>取組内容③【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習、道徳学習において、自尊感情の醸成と命を尊重する心の育成に取り組む。</li> <li>・家庭や地域等と連携したボランティア活動や福祉体験の実施に取り組む。 (道徳教育の推進)(人権を尊重する教育の推進)</li> </ul>	<p>B 3. 15</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学齢に応じた人権感覚を醸成するための授業を全学年で1回以上実施する。</li> <li>・道徳の授業研究に取り組み、学級担任は全員年間1回以上の授業発表を実践する。</li> <li>・SKIP ポータル「いいところみつけ」をもとに、児童の個別懇談、教育相談等での活用を図り、自尊感情を向上の手立てとする。</li> </ul>	<p>A 5 B 28 C 0 D 0</p>
<p>取組内容④【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達障がいを含む障がいへの理解を深化させ、障がいのある児童が地域で学びやすい基礎的環境整備に取り組む。</li> <li>・教職員、児童、保護者、地域住民に対し、発達障がいを含む障がいに関する基礎的な知識及び理解の推進に取り組む。 (インクルーシブ教育システムの充実と推進)</li> </ul>	<p>B 3. 18 A 6</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・巡回相談を年間2回以上活用し、障がいへの理解と実践力の強化を図る。</li> <li>・教職員全員が、校内外で開催されるインクルーシブ教育にかかる研修、実践発表会に年間1回以上参加受講する。</li> </ul>	<p>B 28 C 0 D 0</p>
<p>内容⑤【施策2 道徳心・社会性の育成】</p> <p>人格形成の基礎を培うため、音楽や吹奏楽を通じて、情操教育の充実に取り組む。 (音楽・吹奏楽に親しむ機会の創出)</p>	<p>B 3. 32 A 11</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校外で開催される専門家が主催する音楽鑑賞会に年間1回以上参加する。</li> <li>・児童集会等で音楽を取り入れた活動を年間3回以上実施する。</li> </ul>	<p>B 23 C 0 D 0</p>
<p>年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析</p>	
<p>① いじめに関するアンケートやQ-Uの結果を分析することで、積極的に児童理解に取り組むことができた。Q-Uに関する校内研修も年2回実施した。また、スクールカウンセラーとのカウンセリングを保護者に進め、活用することができた。</p> <p>児童理解・不登校のデータベースを作成し、教職員が記入、閲覧できるようにした。個人面談の実施や、入級児童に対して支援担当者と情報共有し、児童理解に努めた。</p>	



児童の学習環境改善の一環として、「加島小学校の暮らし」の内容の見直しを行い、改善版を次年度カラー版で保護者に配布する。

- ② 不審者侵入及び、各種災害を想定した訓練を年間1回以上実施できた。引き渡し訓練についても実施できた。

防災・減災にかかる授業については、できている学年とそうでない学年があった。

- ③ 道徳学習や人権学習を通して、人権感覚を醸成するための授業を年間1回以上実施できた。また、道徳の研究授業に取り組み、年間1回以上の授業発表を実践することができた。いいところみつけの記入が昨年度に比べて増加したが、それを活用できているとは言えない。

- ④ 巡回相談を活用し、障がいへの理解と実践力の強化を図ることができた。校内で行われた発達障がいについての研修に教職員、保護者が参加することにより、障がいに関する基礎的な知識及び理解の促進ができた。

タブレット端末の使用等で誰もが見やすく分かりやすい資料提示ができるようになった。

- ⑤ 音楽集会や音楽鑑賞会への参加など、音楽に関する活動を取り入れることによって、情操教育に取り組んだ。

#### 来年度に向けての改善点

- ① 児童の個別面談に積極的に取り組んだが、全児童を対象とすることは難しかった。

- ② 不審者侵入の防犯訓練の内容を見直す。教職員を対象とする不審者対応の研修を行う。低学年校舎に不審者役を1名増員し、低学年も緊張感をもって訓練に取り組めるように計画する。

「警備及び防災の計画」、「安全対策マニュアル」の役割分担が一貫性のない配置になっているケースがあるので極力そうならないように改善する。

引き渡し訓練の参加率が低かったので実施日時を検討する必要がある。

- ③ 校内研究とも関連させて「いいところみつけ」の効果的な活用方法を考える。

道徳の授業をするにあたり、多種多様な意見を受け入れ認め合う学級経営、実生活とのつながりを意識して、指導のあり方や評価の仕方を見直すようにする。

- ④ 特別支援を必要とする児童の指導評価の工夫をする。

障がいのある子だけでなく、その周りの子に対しての働きかけや、保護者・地域への発信を継続していく。

- ⑤ 音楽鑑賞会参加の是非や音楽集会を行う時期を検討する。(旅費、参加学年等)



大阪市立加島小学校 平成 30 年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準	A：目標を上回って達成した	B：目標どおりに達成した
	C：取り組んだが目標を達成できなかった	D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p><b>【心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓くための学力・体力の向上】</b></p> <p>全市共通目標</p> <p>○小学校学力経年調査における標準化得点を、同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より向上させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均の 7 割に満たない児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント減少させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における正答率が市平均を 2 割以上上回る児童の割合を同一母集団で比較し、いずれの学年も前年度より 1 ポイント増加させる。</p> <p>○小学校学力経年調査における「学校の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を、前年度より増加させる。</p> <p>○全国体力・運動能力、運動習慣調査において、特に課題である反復横跳びの平均の記録を、前年度より 5 ポイント向上させる。</p> <p>学校の年度目標</p> <p>○年度末校内調査において、「宿題をきちんとするなど、学校の授業以外にも家でしっかり学習している」の項目について、肯定的回答率を前年度（79.9%）より 5.1 ポイント増加させる。</p> <p>○年度末校内調査において、「本を読むようになったと感じる」の項目について、肯定的回答率を前年度（56.3%）より 8.7 ポイント増加させる。</p> <p>○年度末校内調査において、「運動することが好きである」の新規項目（前年度調査無）について、肯定的回答率を 80%以上にする。</p> <p>○年度末校内調査において、「毎日、同じくらいの時刻に寝ているか」「毎日、同じくらいの時刻に起きているか」の項目について、肯定的回答率を前年度の割合より増加させる。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容⑥【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <p>・3～6 年生の国語科、算数科の学習において、習熟度別少人数授業等、児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じた指導を通じて、学力向上に取り組む。</p> <p>（学校力 UP ベース事業）（学力向上支援サポート事業）</p>	<p>A 4</p> <p>B 27</p> <p>C 0</p> <p>D 0</p>



<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童への国語科、算数科に対する授業アンケート結果「授業がわかる」等の肯定的な回答の割合を 70%以上にする。</li> </ul>	<p>無 2 3. 13</p>
<p>取組内容⑦【施策 5 子ども一人ひとりの状況に応じた学力向上への取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験的な学習を効果的に授業に取り入れ、「主体的・対話的で深い学び」を実現し、児童の資質・能力を育成するための授業改善に取り組む。 (「主体的・対話的で深い学び」(アクティブラーニング)の推進)</li> </ul>	<p>A 6 B27 C 0 D 0 無 0 3. 18</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の授業において、「主体的・対話的な深い学び」を意識した授業実践を年間 7 割以上行う。</li> <li>・教員は、校内外で開催される「主体的・対話的な深い学び」にかかる研修、実践発表会に年間 1 回以上参加受講する。</li> </ul>	<p>無 0 3. 18</p>
<p>取組内容⑧【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階に応じ、「聞く」「話す」の育成も含めたコミュニケーション能力をバランスよく育むとともに、基礎基本の英語を大切に、教員の英語力・指導力の向上にも取り組む。 (英語教育の強化)</li> </ul>	<p>A 2 B31 C 0 D 0 無 0 3. 06</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学年に応じた外国語の授業時数を確保する。</li> <li>・各学年において、計画通りにモジュール学習の実践を行う。</li> </ul>	<p>無 0 3. 06</p>
<p>取組内容⑨【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ICT 機器を効果的に授業に取り入れ、協働的な学びや思考力・判断力・表現力の育成、児童一人ひとりの能力や特性に応じた指導等の充実、授業の質の向上に取り組む。 (ICT を活用した教育の推進)</li> </ul>	<p>A 5 B28 C 0 D 0 無 0 3. 15</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級で、1 週間に 5 時間以上 ICT 機器を活用した授業を実施する。</li> <li>・教員全員が、校内外で開催される ICT 機器を活用した授業実践にかかる研修会、実践発表会に年間 1 回以上参加受講する。</li> </ul>	<p>無 0 3. 15</p>
<p>取組内容⑩【施策 6 国際社会において生き抜く力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・外国人教育を通して、多文化共生、異文化理解の取組を進める。</li> <li>・国際クラブの活動の推進を図る。 (多文化共生教育の推進)</li> </ul>	<p>A 4 B29 C 0 D 0 無 0 3. 12</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校行事や「総合的な学習の時間」等において、年間 1 回以上、世界の国々について学習する。</li> <li>・年間を通じて行われる課内実践・民族講師との交流等を通じて、多文化共生教育かかる授業を校内において、低、中、高学年でそれぞれ 1 回以上実践する。</li> <li>・国際クラブの活動を活発にし、交流会、発表会を通じて、参加児童の意欲、関心を前年度より高める。</li> </ul>	<p>無 0 3. 12</p>



<p>取組内容⑪【施策 7 地域に開かれた学校づくりと生涯学習の支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・言語力の育成や読書環境の充実を図り、読書活動の促進、読書習慣の定着を図る。</li> <li>・読書タイム、読み聞かせ活動の充実を図る。(教職員、ボランティアの活用)</li> </ul> <p>(学校図書館の活性化)</p>	<p>A 4 B28</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本を読むことを促す環境の整備を進める。</li> <li>・図書館の利用者数を前年度より増やす。</li> <li>・個人の読書冊数を前年度より増やす。</li> <li>・個人の本の貸し出し冊数を前年度より増やす。</li> <li>・校内アンケートの「本をよく読むようになった」の項目の肯定的回答率を前年度より増やす。</li> </ul>	<p>C 1 D 0 無 0 3. 09</p>
<p>取組内容⑫【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の体力・運動能力の向上に向けて、運動・スポーツに楽しく参加できる学校行事、各種取組を実施し、運動やスポーツに親しむ機会を増やす。</li> </ul> <p>(子どもの体力・運動能力向上のための取組の充実)</p>	<p>A 7 B24 C 1</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校内駅伝大会、駆け足大会、シャトルラン大会等、児童の発達段階に応じたゲーム性やイベント性を加味した体育的行事を年間 1 回以上実施する。</li> <li>・ゲーム性の高い運動を体育の授業に取り入れる。</li> </ul>	<p>D 0 無 1 3. 19</p>
<p>取組内容⑬【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の発達段階に応じた健康に関する指導を推進し、日常より基本的生活習慣について徹底するように取り組む。</li> </ul> <p>(健康に関する現代的課題への対応)</p>	<p>A4 B28 C 0</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・淀川区役所「子どもの睡眠習慣改善支援事業（ヨドネル）の調査結果を活用する。</li> <li>・保健の授業や懇談会、教育相談等の様々な機会を通じて、児童や保護者に啓発活動を継続的に行う。</li> </ul>	<p>D 0 無 1 3. 13</p>
<p>取組内容⑭【施策 7 健康や体力を保持増進する力の育成】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食に関する正しい知識と望ましい食習慣を児童の発達段階に応じて、身につけるように取り組む。</li> </ul> <p>(食育の推進)</p>	<p>A 8 B24 C 0</p>
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、「食に関する指導の全体計画」を完遂する。</li> </ul>	<p>D 0 無 1 3. 25</p>



年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ⑥算数科と国語科において習熟度別少人数授業を進め、児童一人ひとりの学習理解度や課題に応じた指導を通じて、児童への国語科、算数科に対するアンケート結果「授業が分かる」等の肯定的な回答の割合を概ね70%以上にすることができた。また、授業でICT機器を活用し、視聴覚的にもわかりやすいように資料を提示することができ、子どもたちの興味や学習に対する意欲を高めることもできた。
- ⑦今年度の研究主体にある「対話的な深い学び」を念頭に、「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業実践を年間7割以上行うことができた。校内外で開催される「主体的・対話的な深い学び」にかかる研修、実践発表会に年間1回以上参加し、知見を広げることができた。
- ⑧C-NET講師と連携をとることで計画に従って、外国語の学習を進めることができた。  
モジュールの時間を確保し、ICT機器を活用して発音やリスニング等の活動に取り組むことで、児童が英語に親しむ機会を増やし、外国語への興味・関心を深めることができた。  
また、教員研修として、外国語研修(7月)、外国語活動訪問研修(11月)、外国語授業参観(2月)を行い、英語力・指導力の向上に努めることができた。
- ⑨国語科・算数科を中心にデジタル教科書を活用して、週5時間以上ICT機器を活用することができた。また、中間評価の反省から、児童がタブレット端末を効果的に活用できていないことが明らかになった。そのため、体育科・理科ではカメラ機能を使った学習、社会科ではインターネットを活用した調べ学習、音楽科では旋律づくりやリコーダー練習時のMuse Scoreなどの使用など、様々な教科指導においてタブレット端末を活用した。校内外の研修会や実践発表の参加で、さらに知見を広げ、その後の実践に活用することもできた。
- ⑩アジアの遊びに親しむ週間や、民族講師との交流給食を通して、異文化理解を深めることができた。タブレット端末などでアジアの国々について調べ学習をするなど、ICTを活用した学習も進めた。国際理解発表も予定通り実施することができた。
- ⑪図書館や学級、学年文庫の活用、お話会の実施や、補助員さんの協力により児童が読書に親しむ環境整備ができた。図書委員会を中心にイベントを企画し実施することで、図書館利用者数は、1月現在で前年度の同時期利用者数の1.65倍と伸ばすことができた。しかし、個人の貸出冊数は前年度より減少している。個人の読書冊数については、測定方法が難しく実際に読んでいるかどうか測れていない。
- ⑫体育の授業では、ゲーム性の高い運動を取り入れ、児童は楽しく運動に取り組むことができた。夏季休業中に校内研修を実施し、教員の意識も高まった。  
なわとびタイム、かけ足タイムの業間運動を実施し、運動やスポーツに親しむ機会を増やすことができた。また指標にあるマラソン大会などの体育的行事を全学年実施することができた。
- ⑬日々の健康観察や生活アンケートをもとに、児童の健康課題に合った指導をすることができ、保健教育や教育相談などの様々な機会を通して児童や保護者に啓発することにより、児童が自ら生活習慣を改善する姿が見られた。  
また、学校保健委員会では、淀川区「子どもの睡眠習慣改善支援事業(ヨドネル)」の調査を活用した睡眠の大切さについての講演により、児童・保護者・教職員が共通理解することができた。
- ⑭年度始めに「食に関する全体計画」を作成し、栄養教諭を中心に計画通り進めることができた。また全学年年間2回、児童の発達段階に合わせた栄養指導を実施することで、食への理



解が深まっている。学級では、毎日の給食カレンダーや給食だよりを活用し、食についての関心を持たせるよう取り組んだ。

#### 来年度に向けての改善点

- ⑥児童への国語科、算数科に対するアンケート結果「授業が分かる」等の肯定的な回答のうち、「国語は好き」が69%、「進んで発表している」が52%と2つの回答が70%を下回っている。よって来年度は、引き続き算数科と国語科において習熟度別少人数授業を進めつつ、達成できなかった2つの項目を解決できるよう努めていく。また、個別学習の時間をとって指導しているが、十分な時間が確保できないことや家庭学習の定着が不十分な児童もいる。これについては、放課後 STEP・UP を立ち上げ、放課後学習を組織として週に1回実施することで改善を目指す。
- ⑦児童が深い学びにつながっているかどうかを見取る評価方法を学ぶ機会を全教職員で設けていく。
- ⑧様々な教材を増やすことで、より児童の興味・関心を深めることができるよう、引き続き取り組んでいく。
- ⑨学年により使用頻度に差があるため、活用方法について情報共有し、使用頻度を上げていく。
- ⑩ペルーなどにルーツを持つ児童も増えており、韓国・朝鮮や中国といったアジアの国だけではなく、世界の国へも視野を広げる必要がある。また、週1回のアギコレ・シオンマオについては参加についての配慮が必要である。
- ⑪校内アンケートの「本をよく読むようになった」の項目の肯定的回答率の保護者回答を増加させるために、読書活動の定着化を目指す。個人貸出冊数を増加させるために、「朝日新聞社読書貯金ノート」を行っていく。
- ⑫業間運動の実施で、運動量の確保はできているが、楽しんで運動に取り組めるような取り組みも必要と感じる。年度末校内調査における、「運動することが好きである」の項目の回答を分析し、児童が自ら進んで運動に取り組める場の設定が必要。
- ⑬日々の健康観察や生活アンケートの結果を活用し、児童の生活習慣がさらに改善していくように今後も指導や取組を続けていく。また、本校は睡眠が課題となっているので、引き続き淀川区の協力を得ながら啓発を続けていきたい。
- ⑭さらに食についての関心を深められるよう、月始めに委員会から出ている食育指導の資料を配布し、各学級で活用できるようにしていく。